

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	江東区永代1-12-5第七小崎ビル101
施設名	小鳩保育園永代

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

音で遊ぼう！～五感で楽しむ音の世界～

〈テーマの設定理由〉

子どもたちが身の回りの様々な「音」に興味を示す姿が見られるため、様々な音の体験を通して感性を育むことを目的とします。自分の身体を使って音を出したり、楽器やモノを使って音を出す、環境によって音の聞こえ方が変化する、など音の多様性を楽しむとともに、協調性やコミュニケーションの力を育みます。

2 活動スケジュール

1月：職員での話し合い、環境の見直しを行う。
2月：0.1歳児の子どもに合わせた環境設定を行う。
19日 26日に保育観察を行う。振り返りとカンファレンスを行う。
3月：0.1歳児の子どもに合わせた環境設定を行う。
5日 19日に保育観察を行う。振り返りとカンファレンスを行う。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

ソリッドドラム ドラムセット マラカス 太鼓 ボンゴ スレイベル 音の出る絵本 吸音パネル

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

- ・手で叩いたり、足踏みしたりすることでも音が出ることを楽しめるよう、手遊びや歌を保育者がさりげなく歌う。
- ・子どもの動きや興味に応じた楽器の玩具を保育室にさりげなく置いておき、子ども自身が気付いて遊びを広げる様子を保育者は観察する。
- ・身のまわりではどんな音がするのか、風の音や足音、鳥のさえずりなどにも耳を澄ませて、保育者が言葉にするなどしてはたらきかける。
- ・保育者は保育観察を行い、子どもの気づきを話し合いカンファレンスを行う。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

- ・床や棚に積木が偶然あたって音が出ることに気付いた子がいた。
- ・それを見た他の子が、太鼓を触ったり叩いたりし始めた。
- ・バチを持って叩く子、バチを垂直にして叩く子、ドラムセットのシンバルを触ってみる子など、音のおもしろさに気付いていた。
- ・保育者の歌に合わせて体を揺らしてリズムをとったり、「トントントン」と太鼓を叩いたりして自分なりに表現することを楽しんでいた。
- ・鳥の鳴き声、救急車のサイレン、ヘリコプターの音などにも気づき、生活の中にある様々な音に気付く様子が見られた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

- ・生活やあそびの中で偶然出た音への驚きや発見、繰り返す、音の出る楽しさを感じている様子が見られた。保育者はその姿を見て、「音が出たね」「トントンて言ったね」共感すると、子どもの楽しみが広がっていった。
- ・0歳児や1歳児なりに他の子が音を出していることに気づくと、自分もやってみようとする意欲につながるようになった。
- ・楽器や音の出る玩具だけではなく、生活や自然の中にある音にもおもしろさを感じて楽しんでいるということがわかり、その感性を大切にしていきたいと感じた。